

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 上顎前歯部インプラント修復

演者名 古田洋介

日 付 2013年11月26日

keywords

1. 抜歯即時埋入
2. GBR
3. ティッシュスカルプティングト

抄録

インプラントによる欠損補綴の場合、適応症、術式を間違えず、術後管理が上手く行けば、天然歯を切削するブリッジよりも、明らかにインプラントの方が予知性が高いと思われるケースも多い。

しかし、特に審美領域においてはどのような補綴手法を選択したとしても、長期的な審美性が保証されなければ患者は納得しない。よって術者は、インプラント周囲組織(歯肉、歯槽骨)の特性を熟知し、起こりうる変化を事前に予測して治療計画を立てなければならないが、未熟な私は、後でカバー出来なくなる様なミスだけはしないように自分なりに細心の注意を払っているつもりである。

今回はそのような2ケースを呈示させて頂く。諸先生方のご指導ご鞭撻等頂ければ幸いです。